

新春座談会



中川 孝

山口商工会議所 専務理事

弥政 勇作

山口商工会議所青年部 会長

河野 康志

山口商工会議所 会頭

真庭 孝雄

一般社団法人
山口青年会議所 理事長

佐藤 光

一般社団法人
吉南青年会議所 理事長

今年の新春座談会では、次代を担う若手経済人をお招きし、これからの山口市について、そして地域課題などについて意見を交わしました。

(中川専務) 新年あけましておめでとうございます。今回は若手経済人との座談会ということで、各団体の取り組みや、地域が抱える課題に対する考えなどを踏まえ、これからの山口市について伺ってまいります。

まず、各団体のスローガンや重点事業、地域活性化に向けた取り組みなどについてお話いただけますでしょうか。

(河野会頭) 商工会議所は、法律に基づき設置が認められている特殊法人で、中小企業や小規模事業者を支援する総合経済団体です。山口商工会議所は全国に515か所ある商工会議所の一つとして、地元の商工業者の意見を集約し、経営支援や地域活性化、政策提言など幅広い活動を展開しています。現在は、中小企業・小規模事業者の支援、交流人口の増加、定住人口の増加を重点課題とし、地域社会が直面する課題に対応するとともに、コンパクトシティの実現に向けた取り組みを進めています。

私は会頭に就任して9年目を迎えましたが、時代が確実に変化していることを実感しています。特に、人口減少が進む中で、公共

交通の維持や高齢化社会における移動手段の確保が重要な課題となっています。

今回の座談会では、皆さんが感じていることを率直に話し合い、共有することで、山口市の将来に向けた課題解決につながる議論が深まることを期待しています。

(弥政会長) 山口商工会議所青年部（以下、山口YEG）は、これからの地域経済を担う青年経済人が相互研鑽し、個々の資質向上と会員相互の交流を通じ、企業の発展と豊かな地域経済の社会を築くことを目的に、昭和53年に設立された団体です。

今年度は「共想～想いを紡ぎ、未来へ歩む～」というスローガンの下、思いを言葉に変えて意見を交わり、共感と共有を繰り返しながら一歩ずつ歩を進め、山口市の未来について模索していこうと活動しています。

主に、山口七夕ちょうちんまつりでは運営に携わっており、山口祇園祭では子供御輿の巡行や小学校への出張授業の実施で子供たちに地元の歴史と伝統を伝えて郷土愛を育む取り組みをしています。

す。また、「12月、山口市はクリスマス市になる。」事業ではイルミネーションの設営や点灯式を実施し、「家族が住みやすいまちづくり」というコンセプトの下、地域経済活性化に向けた主催事業の「ファミリーフェスティバーリ」も開催しています。



親子連れが多く集まるファミリーフェスティバーリ

(真庭理事長) 山口青年会議所（以下、山口JC）は、今年で設立70周年を迎えます。今年度は「好きです山口」というスローガンを掲げました。これまで山口JCが地域の皆様に愛され活動を続けてこれたのは、山口市のため、この街の人々のために活動されてきた先輩方がおられたからです。一旦は自分を捨てて、山口市のために一生懸命に動いてもらいたい、そういった経験をした上で地域のリーダーとして育ってほしいという想いでスローガンを決めました。

今年度の事業はまず70周年を記念した例会や式典等があります。そして、重点的に進めたいのが令和元年以降中断していた韓国の公州青年会議所との交流事業「山口・公州ジュニア交流隊」です。私が小学生の頃に他都市との交流会に参加した際、パディを組んだ中国人の子が自分の国のことを生き生きと語ってくれたのを覚えています。当時の自分には山口市の魅力を伝えることができず、これをきっかけに山口や大内氏の歴史などを調べることが好きになっていった経験があります。子供の段階で海外の方と交流することで山口市の魅力に気付き、山口市のことをさらに好きになってもらうきっかけにもなると考えています。そのほか、地域伝統の神事・行事への参画はもちろん、「青空天国いこいの広場」も引き続き実施する予定です。



青空天国いこいの広場で盛り上がるパークロード

(佐藤理事長) 吉南青年会議所（以下、吉南JC）は、山口市の南部地域を中心に活動しています。今年度は「Be the light～活動のそばに成長を、地域を照らす光となる～」というテーマを定めました。私は第49代理事長に就任し、来る50周年を見据えて、着実に準備を進めていきたいと考えています。

私たちの大きな事業の一つに、ふしの夏まつりがあります。多世代が集まる祭りであり、この日のために遠方から訪れる方もいらっしゃいます。地域の方々と協力しながら、記憶に残り、「また来たい」と期待していただけるように運営していきたいです。また、12月には新山口駅のイルミネーション事業も開催します。毎年ブラッシュアップを図りながら、当初は北口広場だけだった装飾は南口にも広がりました。山口市を訪れた方をお迎えし、久しぶりに帰って来た方に山口市の良さを再認識していただくことができ、「ま

た帰ってきたい」と思ってもらえるような環境づくりを進めたいと思っています。



ふしの岩戸太鼓の演奏などが行われるふしの夏まつり

(中川専務) 続いて、山口市の未来について、私たちが暮らす山口が、今後どのような街になってほしいかについて話していきたいと思えます。河野会頭、いかがでしょうか。

(河野会頭) 私が30代前半だった頃、いわゆるバブル時代を経験しました。景気が良く、仕事にも恵まれていましたが、その後の時代の変化とともに、東京一極集中が進み、地方都市では人口減少や仕事の減少といった課題が深刻化しています。

ただ、地方には東京などの大都市とは異なる魅力があります。人が溢れていない分、穏やかに暮らせる環境や、独自の空間と時間の過ごし方があるのです。

山口市は、海や山に恵まれ、一次産業から三次産業まで揃った多様性のある街です。米や水、そして農水産物をはじめとする食べ物も豊かで、本当に素晴らしい場所です。さらに、周辺の7市町と連携を深めていくことで、より豊かな未来を築けると考えています。

(弥政会長) まず子供たちのために明るい未来をつくりたい、活気ある街にしたいという想いが根本にあります。そのためには、先人が築かれてきた基盤と、若者が今後もこの街に滞在したいと思える街づくりをうまく調和させることが必要なのではないかと思います。

山口市はとても恵まれた土地ですが、都心部と比較してしまい、市民がその良さに気付き切れていないところがあるように思います。しかし、一旦外に出ると「山口市ってすごく良いところだな」と改めて認識させられることがあります。

一昨年、中国地方から約200名の青年部会員を山口市に招いて、ロゲイニングという市内を散策して獲得ポイントを競うスポーツ大会を実施したのですが、昨年参加した日本商工会議所青年部の中国ブロック大会で、「あのあと山口に行ったよ」と数十名の方から声をかけていただきました。「家族で行った」「連れて行ってくれた飲食店にもう一度行った」「温泉に入った」など、山口市が魅力ある街であることを肌で感じました。

歴史・文化・観光・食という様々な資源を持つ山口市の魅力により多くの方に知っていただき、大学生をはじめとした若者や子育て世代の多種多様な意見を取り入れて、20～30年後を考えながら魅力ある街をつくっていったら良いと思います。

(真庭理事長) 私は、地域の歴史や文化を愛して、年齢や性別に関係なく「山口市のために」と考えて行動してくれる人がたくさんいるような活気ある街になってほしいと思っています。

山口市から10年ほど離れて帰ってきて、「寂れてしまった」との嘆きを聞くこともあるのですが、私自身は「まだまだ元気だな」と思ったのが実際のところ。そう思えるのは、歴史ある祭りをこの時代まで繋いで残してきていただいたからだだと思います。祭りとは、街の人たちの結束力を組み合わせてできるものです。祭りを残して

いるからこそ、山口市の人たちが一致団結する機会があり、この街が盛り上がっているのだと思います。

そして、祭りを継続させるためには奉仕の心が大切で、それを地元の人だけでなく、新しく山口市にいられた人にも分かってもらえるよう、祭りを見るだけでなく、参画してもらうことが大事だと思います。そのためにはJCやYEGなど若手が声掛けをしていかなければならないと思っています。街の祭りが元気に続いていくことによって、活気ある街となり、これからの世代の人をはじめ山口市のことを好きになってくれる方が増えるのではないかと思います。

(佐藤理事長) 私は広島出身で、勤務先が市内ということから吉南JCに関わるようになりました。市外出身者として客観的に見ると、山口市には文化も芸術も、そして市や県の行政関連やビジネス関連の中核機能も集まっているように思います。それだけでなく、広い公園など走り回れるような環境も整備されています。

ただ、目的を持って、その場所を選んで行かなければならない印象があります。様々な機能や施設がバランスよく整備されている街だと思うので、「ここに行ったらこういうこともできるし、ああいうこともできる」という風に、多目的になる工夫ができればいいのではないかと思います。

そのような工夫を、我々JCやYEGなどの活動で補っていければと思います。自分たちよりも下の世代や、学生の方も志を高く持たれている方は多くいらっしゃいます。地域内にも様々な団体がありますが、それぞれ特徴を持ちながらも地域を良くしたいという想いは共通していると思うので、そのような方と協力しながら、単発にならず、未来に繋げていける活動を互いに支え合いながらやっていければ、より良い将来にできるのではないかと考えています。

(中川専務) 皆様、ありがとうございました。今度は、人口減少や公共交通の現状といった山口市が抱えている地域課題についての考えをお聞きたいと思います。

(河野会頭) 今から40年後、日本の人口は9,000万人を下回ると推計されています。これにより、働き手や産業の維持、教育機関の存続など、多方面で深刻な影響が出ると考えられます。山口市においても、中心部の人口増加が周辺部の人口減少をカバーしてきた状況ありましたが、近年では全体的に減少傾向が見られます。

人口減少は税収の減少を伴い、社会インフラの整備が難しくなる可能性があります。例えば、台風による被害が復旧に時間を要するなどの事態が予想されます。山口市では国道9号線の宮野から木戸山に抜ける幹線道において、大雨時には事前通行規制が発令され、一般通行は勿論、救急搬送もできない事になります。このため、都市間を結ぶ幹線道路の維持を国土交通省に働きかけるなど、地域を守るための努力が必要です。

公共交通に関しては、徳地地域でAIデマンドシステムを活用した乗合予約運行の実証実験が始まっています。今後、人が集まる地域では定時運行型を維持し、人口の少ない地域ではデマンド型に移行するなど、持続可能な交通のあり方を議論していく必要があります。

住みよい地域社会を維持するには、ある程度の人口集積が必要です。そのため、都市機能を維持するための住む場所の集約化を進めつつ、一次産業などでは効率的な生産が可能な地域を活用するなど、適切な住み分けを考える必要があります。また、技能実習生をはじめとする外国人の積極的な受け入れも重要な課題として向き合うべきです。

これらの課題について、短期的な視点だけでなく長期的な視野で取り組むことが重要です。日々の事業活動の中でも人口減少や

公共交通の課題を意識しながら行動していただきたいと考えます。

(弥政会長) 人口が都心部の一点集中型になっている中で、地方都市の人口減をどう食い止めるかというのは、難しい問題です。約25年後、山口市の人口は約3万人以上減ると推計されています。この人口減少のスピード感を少しでも緩めていくには、若者の流出を食い止めることが重要なカギになるのではないかと考えます。

人口減を緩めるという点では、出生率向上も解決策の一つと考えられます。しかし、子供を産まないという選択もできる多様性の時代です。子供を産む選択をした夫婦が2~3人目を育てやすい環境をつくるのが持続可能な街づくりなのではないかと思いました。

人口問題研究所によると、1980年に結婚されている夫婦で子供が一人の家庭は16%だったのが、2021年には30%に増えていて、子供が二人いるという家庭は61%から45%に減っています。2人目以降を育てることが厳しい世の中になっているということが表れているのだと思います。行政・民間が力を合わせて子供を育てる家庭をフォローアップし、子育て世代が暮らしやすく、若い世代がUターンしやすい街づくりをすることが、人口減をスローダウンさせる対策となるのではないのでしょうか。

公共交通についても、例えば車を運転していてバスと横並びになったとき、乗客の少なさに驚いたことがあります。やはり必要とされる場所に、必要な路線をつくるのが大事だと思います。また新幹線が遅延すると、山口線にうまく乗り継げないこともあります。新山口駅から湯田温泉に観光客を誘致するためにも、インフラ整備は重要事項だと考えます。

(真庭理事長) 2023年の人口動態統計によると、山口県の合計特殊出生率は全国で10位と上位に入っています。ただ、都会に憧れて、大都市に移り住む人の多さが山口市の人口減少の要因の一つではないかと思っています。

私も進学・就職で山口市から離れていたのが気持ちは分かりますし、ある程度仕方ないことだとも思いますが、幼少期に山口市でどれだけ思い出を作ることができたかによって、山口市に帰ってくるきっかけづくりができるのではないのでしょうか。

人口減少への抜本的な対策にはならないかもしれませんが、長期的に見て、山口市に帰ってくる子供たちを増やすためには、私たちやその他の団体が、子供たちに山口市の特色ある様々な経験をさせてあげることが、人口減少に歯止めをかけるものになるのではないかと思います。

また、自由に車の運転ができるうちは、山口線が運休になっても不便を感じる人は少なく、公共交通に対してあまり意見は出てこないと思いますが、運転が難しくなってくると状況は変わります。山口商工会議所で公共交通に関するアンケートを取られていたように、日頃から事業所や市民の方に意見を伺って関心を持つきっかけをつくるということが良いのだと思います。

(佐藤理事長) 山口市を出て行ってしまふ理由は進学や仕事の関係など様々あると思います。情報が多く得られる時代で、やってみようと思うことがあれば、すぐに実行できる環境もあります。

しかし、山口市に留まってもらう工夫はできるのではないかと思います。学生など若い世代の人からは、「山口市にどんな企業があるかを知らない」という声が聞かれます。小中高だけでなく、未就学児を対象にしたものでも、仕事を知ってもらうためのイベントを開くというのは一つの解決策になるのではないのでしょうか。先に真庭理事長がご自身の経験を話されていたように、幼少期の思い出は基本的には残り続けるものだと思うので、仕事に触れる

機会をつくることで、山口市で職場を選ぶきっかけづくりになると考えます。

また、ただ人を集めるだけの施策を打つのではなく、「山口市ではこんなことをやります」「こんな市にしていきたい」という考えを明らかにすれば、共感する人が集まり、山口市に住みたい人がある程度担保されるようになると思います。

公共交通については、車がなければほとんど生活や仕事ができない状況ですが、県外に行こうとすれば新幹線も通っていて、隣接市に空港もあり、本数は限られているものの在来線もあります。車は便利でありながら雨の日は渋滞が起り、事故が発生しやすいという短所もあります。うまく使い分けができるような整備が必要ではないかと思えます。

山口商工会議所で実施されたアンケートを見ると、しっかりと回答されていて、聞けば答えてもらえるという関係性ができている印象を受けました。声を上げれば問題解決に取り組んでくれる地域だということ的印象づけられれば、人口減少への対策にも繋がるように思います。

(中川専務) それでは最後に、次代を担う若手経済人としての想いを伺いたいと思います。

(弥政会長) 山口YEGは、次代を担う青年経済人として、未来の地域発展を担う責任世代として、資質向上と相互研鑽を図りながら活動することにより、地域の皆様から求められる組織になることを目指して活動を続けてきました。

日本商工会議所青年部の会長の言葉で共感した「継ぎ・紡ぎ・繋げる」という言葉があります。先代から受け取ったものを自分たちが織り合わせて、それをさらに次の世代に繋げていくという意味だそうです。青年部は単年度制という想いの継承が難しい組織ではあるのですが、先輩方がつくられてきたものを継いで、紡いで、そして次の代に繋げ、商工会議所本体や行政と、しっかりと連携を図りながら好循環な地域経済を創出できるようにしたいと考えています。



弥政会長

(真庭理事長) 山口市の中でも様々なコミュニティがあり、様々な考えを持った人がいます。山口JCでもレインボーパレードという性的マイノリティの方々のためのイベントをしたり、子供向けや海外と関わるイベントをしたり、山口市に暮らす様々な価値観を持つ人に対する事業を行ってきた歴史があります。

山口市に住まれていて、色々な声を上げている方がいらっしゃいますが、所属が異なっても、山口市の人や街が好きで、山口市をよりよくしたいという想いを抱えられている部分は共通しているはずです。これから山口JCはどんなことができるかと考えているところですが、その中でも山口JCは「一番に山口市のことが好きである」と言える、好きだからこそ己を捨てて、街のため、人のために動ける団体でありたいと思います。過去70年にわたって先人たちが故郷にかけてきた想いを繋いで、胸を張って「山口市が好きだ」と言えるリーダーを輩出していきたくて考えています。



真庭理事長

(佐藤理事長) JCとしては40歳までしか活動することができません。期間が限定されている中で何ができるか、地域の方を巻き込みながら自分たちの取り組みを進めていくことになります。単にやることをこなしていくのではなく目的意識をもって向き合い、自分たちの取り組みで変化を生み出し、「変わったのではなく、自分たちが変えたんだ」と胸を張って言えるようでありたいです。

しっかりと未来にバトンを繋いでいけるように、山口市で活動する者として、何か地域に良いきっかけをもたらせるような取り組みをしたいと思います。失敗しても良い組織だと言われているので、色々チャレンジしながら前に進んでいきたいです。



佐藤理事長

(中川専務) これまでの話を聞かれてどのように思われましたでしょうか。最後に、会頭から一言お願いします。

(河野会頭) 各種統計データを見ると、例えば賃金に関しては、大手企業が中心の日本経済団体連合会の調査では賃上げの好調な数字が示されています。しかし、山口商工会議所が管内の中小企業や小規模事業者を対象に行った調査では、大手企業とは異なる厳しい経営の実態が浮かび上がっています。

商工会議所は、中小零細企業の実情を把握し、政策提言を行う役割を担っています。この実態を正確に訴えかけることで、必要な施策が現場の課題と乖離しないようにすることが重要です。

中小零細企業は地域社会を支える基盤であり、これを守るための提言をまとめることが、私たちの喫緊の課題です。未来を見据え、課題に真摯に向き合うことで、皆さんと地域社会をより良い方向へ導いていきましょう。



河野会頭

(中川専務) 皆様、ありがとうございました。今後もお互いに協力しあいながら、地域や経済の活性化に取り組んでいければと思います。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。